

多臓器性人獣共通感染症 (Zoonosis) ②

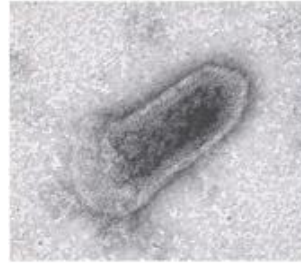
ウイルス疾患

2016.1

アルボウイルス目 (arbovirus) は、節足動物 (arthropod) : 関節と甲殻を持つ生物 (虫のこと) の吸血により動物に伝播されるウイルス (ARthropod BORne virus)。前記 5 群ブニヤウイルスと 4 群のフラビウイルスも含み、国際委員会分類と整合しないので、ここではアルボウイルスの名称は用いない。

＜ボルチモア分類 5 群＞ **ラブドウイルス** 科 (砲弾形、ギリシャ語で「棒」)
Lyssa virus. ① 狂犬病 (Rabies virus)

(4 類) 致死率 100% (発症後完治したものは 2 名)、年間 5 万が死亡。日本では 1956 犬、ヒト翌年ネコ、以後発病記録はない。 2006 フィリピン在住の



砲弾型の Lyssa virus



狂犬病の犬、後肢の麻痺？

2 名が帰国後発病死亡。蛍光抗体法で抗原検出、RT-PCR で診断。 **治療法はない。**

2004 蝙蝠に噛まれたジーナ・ギーズは Dr.ウィロビーによりケタミン+ドルミカムで昏睡状態に、リバビリン+アマンタジンで回復した (ミルウォーキー・プロトコル)。その後この方法で 5 名が生存。米では犬よりネコの感染源が 3 倍、アライグマ輸入で狂犬病が急激に増加。噛まれなくても粘膜の接触で感染が成立。潜伏期は最長 6 ヶ月。ワクチン多種あり。暴露後は **ヨードアルコール消毒+ワクチン+ヒト抗狂犬病グロブリン**。＜4 群＞ (一本鎖 (+) RNA) **フラビウイルス** 科、フラビウイルス (属) **① 黄熱病ウイルス** (4 類) : フラビは黄色、重症は黄疸から。死亡率は 30~50%。ネッタイシマカが媒介。米陸軍病院 (2005 メリーランド州に移転) にその名を冠する Walter Reed や野口英世が黄熱病研究中に感染で死去。

Max Theiler (1951 Nobel 賞) のワクチンがある。今は 17D-204 株生ワク。 **② 日本脳炎ウイルス** (4 類)、豚が感染源。発病率は 1%以下、致死率 30%。日本では 2013、9 名、2015 にも発生。従来のワクチンに ADEM (急性脱髄性脳脊髄膜炎) の発生が疑われたため一時中断していた予防接種は、2009 再開されている。 2012 ワクチン死亡例 (10 歳)、併禁の **オーラップ+ジェイゾロフト** を使用*。 **③ デング熱 (Dengue fever)** (3 類)、語源は筋肉痛で歩く姿が気取ったダンディーに似たから。熱帯シマカが媒介、潜伏期は 4~7 日。4 種の血清型がある。通常重症化しないが、回復後に他の血清型のデング熱に再感染すると抗体がウイルスと結合。この抗体はウイルスを不活性化できないが、抗体結合ウイルスは免疫系をすり抜け、極めて重症化、出血、毛細管破綻など **デングショック症候群を生ずる (抗体依存性感染増強 (Antibody-dependent enhancement ADE))**。血小板減少あり、アスピリンは使用不可。 **④ 西ナイル脳炎 (熱)** (3 類) : 1937 ウガンダの西ナイル地方で分離。2005 米国で発症 3000、死者 119。CDC は **⑤ セントルイス脳炎 (St. Louis encephalitis:SLE)** と誤認、非難された。(USAMRIID が確認) 日本では 2005 ロスからの帰国者が川崎で発病 (5 類、7 日以内)。鳥と蚊が媒介。アレクサンダー大王はバビロン入城時多数の **カラスの死骸** を見、高熱、下肢麻痺、意識混濁などで約 10 日後死亡 (32 才) **。

*QT 延長症候群か？

**プルターク「英雄伝」。マラリヤ、ウエストナイル脳炎、癲癇、毒殺など諸説あり。